

1日（土）～9日（日）Spring Break

今日から3月！ということで、私たちも春休みに入りました。とはいっても、アメリカの春休みは日本ほど一般的ではないため、私たちの休みもたったの1週間と短いものです。さて、私の春休みはこのような感じでした。

2月29日（金）～3月1日（土）

私は1月からダウンタウンにある現代美術館でインターンシップをしています。この2日間は年に1度のオークションが開かれ、私も受付などを手伝いました。いつも静かなギャラリーも、この日ばかりは大勢の人で溢れかえっていて、とても盛り上がりました。画廊では私が作成したスライドショーも映し出され、達成感があったのと同時に、思い出に残る瞬間でした。

3日（月）～8日（土）

この休みを使って、瑛美と私はワシントン DC に旅行に行きました。瑛美のインターン先である国会議員のオフィサー方のご好意により、国会議事堂やホワイトハウスなどといった建物内に特別に入る許可をもらうことができ、めったにできない貴重な経験を楽しみました。左の写真はワシントンメモリアルから見た DC の光景です。

10日（月）

短い春休みも終わり、春学期もちょうど折り返し地点。今日から MidTerm テスト期間が始まりました。昨日からサマータイムが始まり、時計を1時間進めたのですが、頭がまだ対応できておらず、なんだか変な感じです。

11日（火）～12日（水）

この2日間に学校の生徒会長・副会長を決める選挙がありました。学校中に”Vote for ...” という張り紙が張られ、パソコンによる投票を呼びかけていました。

16日(日)



今日は International Studies Club のイベントで、午後からボーリングに行きました。このクラブでは留学生がお互いの交流を図るために、毎月楽しいイベントを企画しています。久々のボーリングに、私も思わずはしゃいでしまいました。

17日(月)



今日は私たちと同じく留学中の、成富俊介さんの22歳のお誕生日でした。成富さんの夜の授業が終わった後、寮に住む日本人だけで小さなお祝いをしました。今日はちょうどセント・パトリックスデーで、この日は緑の服を着るという風習があるらしく、キャンパス内にも緑を着ている人が目立ちました。フロアのロビーで私たちがケーキを食べていると、通り行く人たちが興味深く話しかけてくれ、結果的に小さいながら賑やかなパーティーになりました。

19日(水)



もうすぐイースター(復活祭)です。今日はサラの呼びかけで、近くの教会で子どもたちがイースターエッグを染めるのを手伝いするボランティアをしました。子どもたちは慣れた手つきで20ダースもの卵をたった30分で染めてあげてしまいました。またキリスト復活についてのバイブルスタディーもあり、日本ではあまり見られない、1年に1度のクリスチャン最大とも言われるイベントの真髄を知ることが出来ました。

20(木)~23(日) Spring Mini Break

今日から4日間のイースター休みが始まりました。

回りを見てみると、実家に帰る人、旅行に出かける人、寮に残って静かに過ごす人など、過ごし方は十人十色です。私たちは日本から家族が遊びに来たので、ホストファミリーの家と一緒にゆっくりと過ごしました。

24日（月）



今日はドイツからの留学生、カトリーナの誕生日でした。彼女に内緒でケーキを3つ用意し、みんなで集まった後、「アンケートを書きに来て」と電話で呼び出しました。それを本当だと信じ込んでいた彼女をわっと驚かすと、とてもビックリしていました。彼女は「(サプライズパーティーは) とてもアメリカらしい」と言って、喜んでくれました。

27日（木）



今日は、今学期履修しているマーケティングのクラスで、グループ課題の中間発表がありました。この課題は、クラスで1グループ4人に分かれ、ビルングズ市内でビジネスを起こすと仮定し、どうすればうまく行くかを考察する、というものです。私のグループは多角商品のデリバリーサービスをテーマに、これまで調べてきた顧客ターゲットやライバル企業などについての途中経過を発表しました。

この発表の中で興味深かったのは、あるグループがゲームセンターを市内に作るというテーマのプレゼンテーションをしたときに、成功するはずがないという意見が多数あったことです。最近ではアメリカでもテレビゲームの流行により、ゲームを家庭で楽しむことが多くなり、かつてのようにビリヤードや矢投げをするためにわざわざ外へ遊びに行く人はいないだろう、というのが挙げられた理由です。テレビゲームはそのほとんどが日本から入ってきているため、日本製品がアメリカ人の日常を大きく変えたという現実を、身を持って感じました。

私たちの留学も残すところあと1ヶ月です。今までモンタナ・ライフを読んでいただき、どうもありがとうございました。この報告書を通して、皆さんに少しでも留学について知ってもらい、興味を持っていただけたのであれば幸いです。これまで私たちがこうして留学生生活を成功させられたのも、学校の職員の方々、先生方を始め、多くの人々に支えられてこそだと思っています。本当にありがとうございました。残り1ヶ月も全力投球で頑張りたいと思います。最後のモンタナ・ライフもどうぞお楽しみに～。